ラクトヒロックスの具体的使用事例　ネギ-1

作　物	ホワイトスターネギ
効　果	① ネギ栽培予定地の雑草をきれいに分解できた ② 土がふかふかになった ③ 他の場所のネギに比べ、良好なネギができた
事例年	2021年

福井県坂井市の株式会社ef（社長：伊藤浩一）さんは約３０haの田畑でイチゴやコメ、ネギ、大豆、ソバを栽培している。中でもネギについては近年、力を入れ始めた。昨年までは、水田の転作として栽培していたが、今年はしばらく使っていないビニールハウスでも栽培することにした。

このビニールハウスは、雑草が生い茂っており（写真参照）その処理が第一の大きな課題であった。そこで、まずハンマーナイフモアで雑草を細かく砕き、そのあとラクトヒロックスの粒剤を硫安に混ぜて散布してから、トラクタで耕しスキ込んだ。その結果、雑草は20日ほどできれいに分解できた。さらに、硬かった土がフカフカになった。

定植後は、一部がハモグリバエの被害にあった他は、ほぼ順調に生育した（写真参照）。今年は水田で栽培したネギは夏の長雨の影響で軟腐病になったものが多かったが、ハウスの中のネギには全く発生しなかった。

「ネギは同じ場所で作り続けると、通常は連作障害が発生するが、ラクトヒロックスを毎年散布すると連作障害が出にくくなるとの事なので、来年以降もビニールハウスで栽培する予定である。」と話されていた。

■ネギ定植予定のビニールハウス内（2021-04-03）

■ネギ生育状況（2021-11-09）